

余野小学校だより

令和3年
2月号



学校教育目標

「やさしく かしこく たくましく」
自ら考え、生き生きと活動する
心豊かな子どもの育成

「今の自分が未来の自分を創る」 目標 × 努力 × 継続 = 夢

「見てもらいたいことが いっぱいあるんです」



先日のこと、今月末に参観日があるので、当日の予定表を作るために教頭先生が3・4年担任の先生に、授業参観の教科を尋ねた時のことです。

「じつは、どうしようかと思っていて……。子ども達は参観日で『縄跳びを見て欲しい』『今年になって初めて使う彫刻刀で彫っているところがいい』『いやいや、それより……。』と、お家の人に見てもらいたいことがいっぱいあって……。子ども達は仲間

と協力しながら積極的に、いろいろなことを本当にかんばってきたんです。」

職員会議で、毎回子ども達の様子について話をしています。

「1・2年生の子ども達は、みんな意欲的にいろいろなことにチャレンジしています。たくさんの方ができるようになりました。」

と、担任の先生が目を輝かせて語りました。

あらためて振り返ると、鉄棒だって一輪車だって、それに百人一首も漢字・計算も……。

2ヶ月に1回程度、スクールカウンセラーの先生がやってきます。今回は、5・6年生一人一人と“がんばったこと”や“将来の夢”などについて面談をしました。

帰り際にスクールカウンセラーの先生が校長室にやってきて話してくれました。

「どの子も余野小学校の良いところを、自分の言葉で相手に分かるように話すことができました。将来の夢も自分の得意なことと結びつけて考えている児童が多く、日々の多くの経験が成長にしっかりつながっていると思います。子ども達のやる気を感じました。」

子どものやる気に火をつける

この学校便りとは別に、余野小学校の先生達に向けて校長通信「前へ」を書いています。その中で「やる気」について書いたことがありました。

以前、子どもが伸びると評判の学習塾の先生に尋ねたことがあります。

「子どもの力を付けるのに工夫していることがありますか？」

「工夫はいろいろあります。でも、やる気のない子にいくら指導をしても効果はあまり上がりません。一番は、本人がやる気になることです。本人がやる気になれば、ぐっと力はついてきます。」

と。

では、やる気になる時って、どんな時でしょうか？

- 楽しい、おもしろい（楽しそう、おもしろそう）
- できる、わかる（できるようになった、わかるようになった）
- 他の人と競う（勝ちたい、負けたくない）
- ほめられる・認められる
- 夢・目標をかなえたい、こんなふうになりたい
- 必要感・意義を感じる（これは大切なことだ、やるべき価値がある）
- もうやるしかない、強制力（明日が提出日、命令された）
- 反骨心（「このやろ〜」「くやしい」）

その他にも、いろいろあるでしょうが、**子どものやる気を引き出すには、子どもがやる気になるにふさわしい状況・環境を作り出す**ことがヒントになりそうです。（ある程度の強制力なんてのも、使い方には留意が必要ですが、もしかするときっかけとしては効果的な場合もあるかもしれません）



← ◆**全校児童を集めて“逆上がりベルト”の説明**
「おもしろそう」「わたしもやってみたい」



◆**“自主学习がんばり表”** →
教室の壁に掲示して子ども達の目に触れるように
「ぼくの目標は・・・」「一番になってやる」

学校では、常に「子ども達のやる気に火をつける」ことを意識してきました。
目にははっきり見えないので、どのくらいかはわかりませんが、**火がついた手応えは、
“今” しっかり感じるのです。**

2月の主な行事

1日（月）	6年卒業写真、給食費振替	19日（金）	久世図書館読み聞かせ
12日（金）	新1年入学説明会	25日（木）	学年別参観日
17日（水）	なわとび集会		学校評議員会・評価委員会
18日（木）	新1年体験入学	26日（金）	版画配布 15:15 下校

余野小学校ホームページをご覧ください

インターネットで「**真庭市立余野小学校ホームページ**」を検索

または、URL から <https://www.city.maniwa.lg.jp/soshiki/80/>

<資源回収>

業者から今後ビンの回収はしないとの連絡がありました。ご不便をおかけしますがご了承ください。

**ビンの回収が
できなくなります**

夏椿

学校教育目標

「やさしく かしく たくましく」
自ら考え、生き生きと活動する
心豊かな子どもの育成

「今の自分が未来の自分を創る」 目標 × 努力 × 継続 = 夢

<令和2年度 新体カテストの結果>

“繋がる”と いうこと

新体カテストの種目は、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅跳び」「ボール投げ」の8種目です。それぞれの種目の合計得点により、A～Eの5段階の評価区分に分かれます。（年齢・男女別に得点基準を設定）

評価		A	B	C	D	E
令和元年度	人数（人）	1	7	4	4	1
	割合（％）	6	41	24	24	6
令和2年度	人数（人）	3	6	5	1	1
	割合（％）	19	38	31	6	6

表をもとに<考察>してみると、**全体的な底上げ**がみられました。

○上位 AB 段階の合計をみると、昨年度47％（8人）だったのが今年度57％（9人）になっています。

そのうち、A 段階は昨年1人だったのが3人となっており、上位が増えています。

○下位 DE の合計をみると、昨年30％（5人）だったのが今年度12％（2人）と、下位が減っています。

ちなみに、2年生以上の児童（13人）のA～E 段階評価を昨年比でみると、13人中7人が向上していました。（下がった児童は0）

D → C（2人） C → B（3人） B → A（2人）



<成果の要因>として、今年度、「ロング業間のサーキット」や「チャレンジ週間」等を設定し体力作りに積極的に取り組んできたことが考えられます。**子ども達は休み時間や放課後に自主的に練習し、それを先生達が見守り・付き添い・支援する姿**がありました。

また、学校だより12月号でも紹介しましたが、「家でキャッチボールをいっしょにやっています」「休みの日に

親子で逆上がりの練習をしています」等、各ご家庭での取組が大変大きな力になりました。

「子どもと先生」「子どもと親」「親と先生」。それぞれが目標を共有し、しっかり**“繋がる”**ことが、成果の一番の要因だったのではないのでしょうか。